
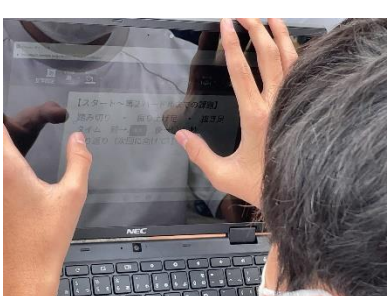


〈令和4年度 ICT活用促進プロジェクトモデル校事業・学力向上実践推進校 藤岡市立西中学校〉

学年・教科：3年・保健体育 単元名：陸上競技「ハードル走」

ねらい：第2ハードルまでを、より速く走り越すためのポイントを知り、自己や仲間の課題を考え、仲間に伝えたり上達列車（学習支援ソフト）に自分の言葉で記入できたりすることができる。

教師の発問、生徒の反応 ◎学びのつながり ★ICTの活用	学習の様子
<p>1 前時の学習を振り返るとともに、本時の学習課題を確認する。【全体】（14分）</p> <p>これまで</p> <p>◎スタートから第1ハードルを勢いよく走り越すための運動のポイントについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時は第2ハードルまで走り越すことを伝え、運動のポイントはどのようなことかを問かけ、本時のめあての設定につなげる。 <p>T: 振り上げ足はどうするのでしょうか。</p> <p>S: 伸ばす。</p>	
<p><めあて> 第2ハードルまでをより速く走り越すポイントを知り、自分の課題を見付けよう。</p>	
<p>ここでは</p> <p>◎前時までの運動のポイントを踏まえ、本時の運動のポイントを見付けられるよう、練習に取り組ませたり、ハードリングのよきモデルを観察させたりすることで、運動のポイントを理解できるようにする。</p>	
<p>2 第2ハードルまでを走り越し、タイムを測定する。【全体】（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動のポイントを意識させながら、試しに第2ハードルまでを走り越したタイムを測定する。 	
<p>3 運動のポイントを意識した練習の後、第2ハードルまでを走り越し様子の動画を撮影し合い、自分の動きを確認し、より速く走り越すための課題を伝え合う。【ペア】（23分）</p> <p>◎★自己や相手の課題を確認できるようにするために、ペアでお互いにタブレットPCの動画を撮影させ上達列車（学習支援ソフト）のお手本動画と見比べさせたり、ポイントができていないか確認させたりする。</p>	
<p>4 第2ハードルまでを走り越し、タイムを測定し、授業前後の比較をする。【全体】（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見付けた課題を意識させながら、第2ハードルまでを走り越したタイムを測定し、授業前のタイムと比較し、分析させることで振り返りにつなげ、運動のポイントの意識の有効性を確かめる。 	
<p>5 本時の授業のまとめ（運動のポイントの確認）と自己の運動の振り返りを行う。【個人】（7分）</p> <p><まとめ> ハードリングの運動のポイントは、踏切位置を遠くにし、振り上げ足を伸ばし、抜き足を引き付け、速く下ろすことである。</p>	
<p>★授業前の自己課題と本時の取り組み・成果を踏まえ、より速く走り越すための自分の課題について、自己の運動の振り返りを上達列車（学習支援ソフト）に記入し提出させる。</p>	
<p><振り返り></p> <p>S: 踏切位置が近くて、振り上げ足が伸びなかった。次は、遠くから踏み切って振り上げ足を伸ばせるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムが縮まった生徒を紹介し、どのようなポイントに気付いたかを発表させる。 <p>T: ○○さんは、どうしてタイムが縮まったと思いますか？</p> <p>S: 第1ハードルから第2ハードルの走りを速くしたからです。</p>	
<p>このあとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって次回の授業に臨めるよう、見付けた課題を踏まえて、次回は自己の課題に沿った練習場所や練習方法を選択し、課題解決に向けて練習を行うことを伝える。 	